第 349 号
平成20年（2008年）1月8日

関西大学通信
THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

関西大学広報委員会
〒564-8680
大阪府吹田市山手町 3－3－35
TEL 06-6368-1121（代表）
http://www.kansai-u.ac.jp/

年齢と勉学

宮本　勝浩

25年前にアメリカ合衆国のインディアナ大学に留学していた。そして、運よくハーバード大学の研究所の客員研究員に招聘されたので、「ムービングセール（引越しセール）」を行うことにした。これまで使ってきたが、ボストンまで車で運んでいけない、机、いす、家具などを、大学の学生などに販売しようと決めて、キャンパスの掲示板に「ムービングセール」と電話番号と名前を掲示した。次の日から、学生が私の部屋に好みのものを買いに来た。ある日、50歳代の夫妻がテレビを買いに来た。私は「学生さんのご両親ですか？」と聞くと、「いや、夫婦とも工学部の学生です」と答えた。私は驚いた！

今と異なり、25年前の日本の大学では50歳代の学生はほとんど見られなかった。「どうして、そのお歳で学生になったのですか？」と聞くと、「実は、高校を卒業後、電気屋に勤めて、しばらくして独立しました。そして、結婚してこれまで順調に電気屋をしてきましたが、最近の家電製品は高度になり、理論が難しくなり、修理が困難になったので、また電気の勉強をし直そうと思って、大学に入学したのです。このテレビをいただいたら分解の練習にするのです」と言った。私は非常なショックを受けた。その歳で勉強し直そうとしていること、中高年の人が簡単に大学に入学ができることなどは、日本ではあまり考えられなかったからである。「そして、大学卒業するとどうされるのですか？」と聞くと、「卒業すると、また家に帰って電気屋を再開するつもりです。もっと学生時代に勉強していれば良かったと反省しています！」と答えた。私はこの中年のアメリカ人の夫妻との会話から非常な感銘を受けた。

何歳になっても勉強しようとする意欲を持つこと、そして勉強できる時には一生懸命勉強することは、大切なことである。そして、単に大学卒の肩書きだけでは、これからの国際競争の時代を生き抜いて、活躍していくことは難しい。資格や実力を身につけることが必要である。大学で学ぶ間に、他人を思いやる心を養い、人間的魅力を身につけ、いい友人や先輩を持つだけではなく、語学力、コンピュータの操作力、専門の知識や応用力、そして難しい資格などを身につけることが大切である。そして、大学に在学中に勉学の習慣を身につけることが必要であり、大学を卒業して社会に出てからもいろいろな勉強を続けていくことが大切である。

中国の紀元前120年頃の古書『淮南子（えなんじ）』に、「学ぶにいとまあらずという者は、ひまありといえどもまた学ぶあたわず」とある。これは「忙しいから勉強する時間がないという者は、時間があっても勉強しない」という意味である。

いつどんな時でも学ぶことが大切であり、それが人生に成功する秘訣である。

（会計専門職大学院教授）

HEADLINE

2面　大阪薬科大学と学術交流協定
4・5面　特集「自己点検・評価から改善・改革へ」
6面　関西大学全学共通科目　二〇〇八年度から新カリキュラム
7面　リードセンターで学ぶ
8面　特集「吹田を知る―紙上博物館展示会―」

千里眼

時が経つのは早いもので、桜の季節を迎えたのはつい先日のことのように錯覚するが、もう年が明けてしまった。昨年は酷暑の夏が長かったせいもあるが、秋があっという間に終わり、いつのまにか新年である。何カ月かあとにはまた卒業生を送り出し、新入生を迎えることになるのだろう▼学内の木々の変化に四季を感じるとともに毎年恒例の行事を迎え、また一歳を重ねたことを実感する。ずっと同じようなことを繰り返しているかのようで、しかし実際には少しずつ変化しながら時は流れてゆく▼卒業生が遊びに来ると、「えらく変わりましたねえ」という声を聞く。中にいる者には見えないのだが、外から見ると大きな変化なのだろう。時には客観的な視点から自分と所属する組織を知ることも必要だと感じる▼時の流れとともに世間は移ろい、人も組織も変わっていく。変わってほしくないこともあるその一方で変化への期待もある。しかしながら、うわべの変化にとらわれず、いつまでも変わらないものを見出し、後進に伝えていきたいものである。

（本村　康哲）

大阪薬科大学と学術交流協定

――工薬連携し共同研究・人材育成

本学と大阪薬科大学は、昨年十二月十日、相互の教育研究活動において学術交流を推進し、双方の発展と充実に寄与するため学術交流協定を締結した。

今後、①共同研究の推進、②教員の相互交流、③大学院生・学部学生の相互交流、④カリキュラムの相互提供、⑤学術情報および資料の交換などを行う予定である。

両大学は、ともに大阪医科大学との連携協定をすでに各大学間で結んでおり、これで医・工・薬の三分野の連携が完成する。

今後は、各大学の知的資源を共有し、共同研究、人材育成の充実を図りたいと考えている。

グローバルCOEプログラム 文化交渉学教育研究拠点

第1回 研究集会

テーマ：東アジアにおける書院研究
開催日：一月二十六日（土）
会　場：関西大学　東京センター

「書院」すなわち民間の教育施設は近世東アジアにおける伝統教養の形成に大きな役割を果たしてきた。書院研究は本拠点が推進する研究テーマの一つであり、今回が記念すべき第一回研究集会となる。

中国、日本、韓国、ベトナム各地域における研究状況について報告と討論を行うとともに、中国の岳麓書院、韓国の陶山書院、大坂の懐徳堂・泊園書院について考察する。発表者にはCOE客員教授の厳紹璗北京大学教授、鄧洪波湖南大学教授、薛錫圭韓国学振興院研究部長、戸川芳郎東方学会理事長など高名な研究者を迎える。COEメンバーの陶徳民、吾妻重二両教授も発表の予定。詳しくはCOEのウェブサイト（http://www.icis.kansai-u.ac.jp/index.html）を参照のこと。

（文化交渉学教育研究拠点）

第12回 先端科学技術シンポジウム

開催日　一月十七日（木）十時～十七時十五分
　　一月十八日（金）十時～十七時
会　場　千里山キャンパス百周年記念会館

本シンポジウムは、先端科学技術推進機構主催の年一回の総合シンポジウムで、今回、従来のプログラム構成を研究の社会貢献の目的で一新し、十七日のオーガナイズドおよびフォーカスセッションで機構傘下の四研究部門の研究成果を発表するとともに、同日、阪大・府大・福井大・(独)産業技術総合研究所との連携セッションも開催する。十八日のプロジェクトセッションでは、四研究センター（ハイテク・リサーチ、学術フロンティア、産学連携研究、医工薬連携研究）の研究開発の成果を発表する。このシンポは、逢坂哲彌早稲田大学理工学術院教授の特別講演、招待講演十一件および一般講演七十七件並びに百件超のパネル展示の形で紹介するものである。

医工連携シンポも開催

なお、十八日十三時から第四回大阪医科大学―関西大学医工連携シンポジウム（大阪薬科大学―関西大学薬工連携セッションを含む）を同時開催する。

詳細は、当機構ウェブサイト（http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/）を参照。

（先端科学技術推進機構）

大学院会計研究科 学術講演会を開催

竹中平蔵客員教授迎え

大学院会計研究科では、元総務大臣・郵政民営化担当大臣の竹中平蔵客員教授を迎え、次のとおり講演会を開催する。学生、教職員は無料。積極的な参加を期待する。入場

テーマ　「日本の構造改革の行方」
開催日　一月十一日（金）
　　十七時～十八時
会　場　千里山キャンパス
　　百周年記念会館
司　会　宮本勝浩
　　（会計研究科教授）
定　員　六百人

（専門職大学院事務グループ）

全国制覇で優勝記念パレード

昨年十二月十七日、千里山キャンパスで、応援団主催の全国優勝記念パレードが開催された。

全国制覇を成し遂げた拳法部、馬術部、重量挙部の部員が応援団に伴われ、正門から悠久の庭までを行進。集まった多数の学生も加わり、学歌を斉唱した後、森本靖一郎理事長、河田悌一学長が各団体・個人の功績を讃えた。

最後は、応援団による応援歌、関大マグマなどのメドレーが披露された。

大学トピックス

●「NPO法人 関西社会人大学院連合」が発足

昨年十一月十四日、本学を含め、関西学院大学、立命館大学、同志社大学など京阪神の二十二大学ともに構成する「特定非営利活動法人 関西社会人大学院連合」が正式に発足し、河田悌一学長が副理事長に就任した。

これは、京阪神の社会人大学院等および関西経済連合会、関西生産性本部、大阪市との連携により、社会人に対して一層充実した教育機会の提供を通じ、地域における人材育成能力の強化、ひいては関西経済の活性化に資することを目的とするもので、文部科学省「平成十九年度社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」にも採択されている。

●佐賀県武雄市と連携協力に関する協定を締結

本学は、昨年十一月二十六日に、佐賀県武雄市と連携協力に関する協定を締結した。この協定は、双方が包括的な連携のもと、地域づくり、教育・文化の振興、人材育成、福祉の増進、産業振興等の分野で相互に協力し、活力ある地域づくりと大学の活性化に寄与することを目的としている。講義として、「武雄学」を設け、市職員に地方自治の現場を紹介してもらうことも検討しており、今後は九州の拠点として交流を深めていく。

●天神橋筋商店連合会と連携協力に関する協定を締結

本学は、昨年十一月二十九日に、天神橋筋商店連合会と連携協力に関する協定を締結した。この協定は、地域との共生をめざす関西大学と、大阪天満に位置し、天神橋筋の活性化と天満の伝統・文化を守り育てることをめざす天神橋筋商店連合会が、歴史的・文化的資源の活用および大学と街商人の交流を図ることにより、教育・文化・商業・街活かし等の分野において、双方の発展と充実に寄与するために積極的に連携を推進することを目的としている。

「地方の時代」映像祭

全国から力作 一堂に

日本全国のドキュメンタリー作品を集めて顕彰する第二十七回「地方の時代」映像祭が昨年十二月一日から八日まで、第三学舎で開催された。

一九八〇年以来の歴史を持つこの映像祭は、本年から、関西大学に場所を移し、在阪放送各局の協力を得ての開催となったが、一日午後に千里山キャンパスソシオAV大ホールで行われた贈賞式は、在阪局のトップが出席するなか、NHK山岡裕明アナウンサーと、毎日放送八木早希アナウンサーの司会で華やかに進められた。

高校生部門、一般部門、放送局部門の入賞者が舞台に上がり、映像祭の実行委員である河田悌一学長、NHK原田豊彦専務理事、民放連玉川寿夫専務理事が表彰にあたり、最後にグランプリ作品、東海テレビ「約束～日本一のダムが奪うもの～」が発表された。

贈賞式後グランプリ作品の上映に続いて、「地域課題を掘り起こす映像の力」をテーマとして、社会学部の藤岡伸一郎教授や本学卒業生である毎日放送沢田隆三報道部長、そしてグランプリ受賞者の阿武野勝彦氏らによるパネルディスカッションが開かれ、活発な議論が展開された。

その後、百周年記念会館で行われたレセプションでは森本靖一郎理事長の開会挨拶に先立ち、上方舞の楳茂都咲弥迦さん（本学大学院修了）が大阪開催を祝って「松竹梅」を舞い、また毎日放送山本雅弘会長の乾杯の発声があり、全国から集まった放送関係者や一般市民の華やかな交歓の場となった。

翌二日は、関大生の司会による、高校生の出品作をめぐってのワークショップや、中国伝播大学からの作品を鑑賞して留学生を中心としたワークショップなどが開かれ、三日から八日まで応募全作品が上映された。

（「地方の時代」映像祭実行委員会企画委員／社会学部長　黒田　勇）

会計大学院セミナー

期待が集まる 会計専門職

大学院会計研究科では昨年十二月十五日に千里山キャンパス尚文館一階マルチメディアAV大教室において、金融庁／公認会計士・監査審査会常任委員で元明治学院大学学長の脇田良一氏を招き「公認会計士試験の改善について」の記念講演を行った。

その後、柴健次教授（大学院会計研究科長）をコーディネーターにして、「会計大学院修了生のキャリア設計」に関するシンポジウムを実施した。パネリストには住友電気工業株式会社経理部長の谷信氏、松下電器産業株式会社グループ採用センター所長の国土真也氏、元大阪府副知事の梶本徳彦氏を始め、本学大学院会計研究科の清水涼子教授が加わり、各界から会計専門職大学院生の将来に大きな期待が寄せられていることが活発に討論された。

（専門職大学院事務グループ）

ポーランド・ビアウィストック大学から

山中敬一法科大学院教授に名誉博士号

授与式に出席した山中教授（前列左から二人目）

昨年十一月九日、山中敬一法科大学院教授が、ポーランドのビアウィストック大学から外国人としては二人目となる名誉博士号を贈呈された。この名誉博士号は、教授のポーランド各大学での講演活動、同国で発表した独語論文やポーランド語への翻訳論文、日本とポーランドの刑法学における学術交流推進の業績などに対して与えられたものである。

ポーランドのビアウィストック大学は、七つの学部（学生数約一万五千人）を有し、ワルシャワ大学の分校から一九九七年に独立した新しい大学である。とりわけ法学部は、ポーランドの全十六大学法学部中のランキングで五位の総合評価を受けるなど実力を誇る。同大学の大講堂で行われた贈賞式では、ニキトロヴィッチ学長から証書が手渡され、その様子が現地のKurrier Porrny新聞などで取り上げられた。

図書館の森

「戦国武将の書状」電子展示室で公開

徳川幕藩体制が確立されるまでの動乱の約半世紀、全国各地に織田信長を筆頭とする名だたる戦国武将が登場し、歴史の主役を演じた。その活動の生の息づかいを感じようとするなら、武将の間で交わされた書状ほどふさわしい史料はない。

関西大学図書館には、古代から戦国期を中心とする文書類が、貴重書として多数所蔵されている。その中に戦国武将の書状も含まれており、平成八年には新関西大学会館の竣工記念として「関西大学図書館所蔵文書展　戦国武将の書状」という展示会が催された。このたび、その主要な文書を電子展示という形で改めて公開する運びとなったので、その簡単な紹介を行いたい。

戦国武将の書状ウェブサイト（http://www.kansai-u.ac.jp/library/etenji/sengokubusho/index.html）

公開の対象となるのは戦国武将の書状と『豊臣秀吉記』である。伊達政宗、細川忠興、毛利輝元、武田信玄、織田信長、徳川家康、豊臣秀吉という著名な七人の武将について、十四点の書状をデジタル画像化するとともに、書き下し文を加えてウェブ上で公開した。

また、寛永三年の最初の『太閤記』が開板されてから三十八年後に刊行された『豊臣秀吉記』は多数の挿絵を含んでおり、三巻六冊のすべてのページを画像で公開している。

このようにデジタル画像化してウェブ上で公開することにより、書状の細かな部分まで直に確認できるようになった。例えば、織田信長の印章は、「天下布武」の印文が刻まれており、彼の武断政治を標榜したものといわれて名高いものであるが、今回公開する織田信長の書状においてその印文を確認することができる。

以上はすべて関西大学図書館サイト内にある図書館電子展示室にて公開しているので、ぜひアクセスしてほしい。（図書館事務室）

新たに2大学と国際交流協定締結

ミズーリ大学セントルイス校（アメリカ）、エアランゲン・ニュルンベルク大学（ドイツ）と

このたび、本学にとって三十八番目の協定大学としてアメリカにあるミズーリ大学セントルイス校（UMSL）、三十九番目の協定大学としてドイツのエアランゲン・ニュルンベルク大学との間に学生交換協定を締結した。

UMSLはミズーリ大学（公立）四キャンパスの中で一番新しいキャンパスで、ビジネススクールはMBAの一般評価基準であるAACSB（マネジメント教育に関する国際的な大学評価機関）の認可校であり、会計学においてはセントルイス地域唯一のAACSB認可校である。学生数は学部学生一万二千五百九十四人、大学院学生二千九百五十四人、教員数は千四十六人。

ミズーリ大学セントルイス校

エアランゲン・ニュルンベルク大学

一方、エアランゲン・ニュルンベルク大学は州で二番目の規模となっており、全部で二百六十五講座が開講されている。キャンパスは二カ所に分かれ、学生の三分の二がエアランゲンの九つの学部で、残りの学生がニュルンベルクの二つの学部で学んでいる。日本の科学技術や政治経済、文化に対する関心が非常に高く、日本学科で学ぶ学生が多数おり、数名の日本人教師も在職している。学生数は二万五千八百十四人、留学生は約二千五百人、教員数は五百三十九人。

今回の学生交換協定締結により、両大学とは、平成二十年度からそれぞれ毎年二人以内の学生交換を開始する。このほど、平成二十年度交換派遣留学生の選考試験が行われ、両大学への派遣留学生第一期生となる推薦候補者が決定した。

（国際交流センター）

教育現場の体験 たくましく語る

学校インターンシップ事後報告会

昨年十月十七日、十二月十九日の二回に渡り、学校インターンシップ事後報告会が開催された。小中高等学校、幼稚園、養護学校といった学校現場で、授業運営やクラブ、サークル活動の補助など多種多様な業務を体験する学校インターンシッププログラムに、今年度は八十一校へ延べ百二十九人の学生が参加した。

参加学生の代表者が、同じく研修を終えた学生や受け入れ先の学校、教育委員会の先生たちを前に成果を発表し、課題を共有して今後の人間的成長につなげることが本報告会の目的である。実際の教育現場で培ったさまざまな体験や、その体験に基づき導いた今後の展望を憶することなく報告する姿はたくましく、誇らしさを感じた。参加学生には、この貴重な経験を、教員を志すか否かといったキャリアデザインの一助にするだけでなく人間的な成長、社会性の向上にもつなげていってほしい。また、実際に指導いただいた現場の先生たちから、厳しくも温かい意見が数々あったことは、若い世代を育てる使命をともに持つものとして大きな刺激となり、さらには、今後の学校インターンシッププログラムを模索していく上で大変な励みとなった。

（学校インターンシップ取組責任者　山本　冬彦）

特色GPシンポジウム 1月12日（土）に開催

一月十二日（土）十三時三十分から千里山キャンパス第三学舎ソシオAV大ホールで「学校インターンシップを通じて若者はどのように育っていくのか―インターンシップ生の過去・現在・未来」と題し、第三回特色GPシンポジウムを開催する。学校インターンシップに関心のある学生のみなさん、学内関係者にはぜひとも参加してほしい。

（学校インターンシップ取組責任者　山本　冬彦）

「関西大学文化・学術活動等奨励金制度」（業績部門）募集

今回募集する業績部門は、課外活動や自主活動において、優れた実績を残した学生を評価し、奨励金をもって支援するものである。次の要領で募集するので、学生諸君にはふるって応募してほしい。

【応募要領】

応募資格　関西大学に在学する学生または所属する団体のうち、文化、学術、福祉、ボランティア活動等の分野において、優れた業績をあげた個人または団体

応募方法　所定の「業績報告書」に必要事項を記入の上、窓口へ提出

募集期間　平成二十年一月七日（月）～一月三十一日（木）

対象期間　平成十九年一月一日～平成十九年十二月三十一日

奨励金

○個人　二十万円を上限として業績内容により決定

○団体　業績内容により決定

詳細は、学生生活課または高槻キャンパスオフィスまで問い合わせのこと。

（学生生活課）

【参考　昨年度採択業績（12件申請中11件採択）】

○The 24th JNDT（Japan National Debate Tournament）チーム２位　個人１位
○土木学会全国大会優秀講演者表彰受賞
○iTunes Music Store R&B 部門デイリーチャート３位
○ほっとサポーター
○ビバ！　ベンチャー吹田2006「ベストプレゼン賞」
○第８回キャンパスベンチャーグランプリ大阪　ニュービジネス部門「佳作」入賞
○MADE IN OSAKA CM AWARDS 学生・テレビＣＭ部門「優秀賞」受賞
○社会貢献に根差した第58回定期演奏会を通じての地域貢献
○ＥＣＤキャンペーンの実施
○第37回吹田まつり　好いたおどり
○御堂筋学生音楽祭

返還義務のない 財団給付奨学金

財団給付奨学金とは、企業や篤志家からの寄付による基金などにより運営されている奨学金で、財団によって詳細は異なるが、返還義務はなく「学業・人物ともに優秀で、学費の支弁が困難と認められる者」に給付されるものである。

本学では、本年度に、新入生十九人、上位年次生二十五人が新たに採用され、合計で百二十人余りの優秀な学生が奨学財団から奨学金の支援を受け学業に励んでいる。

来年度の募集の詳細は、一月下旬に配付予定の『民間奨学財団・地方自治体等奨学金の案内』に掲載されるが、募集は春季の年一回になるので、出願にはくれぐれも注意願いたい。

学生諸君には募集案内を一読のうえ、積極的な出願を期待している。

（学生生活課）

主な財団給付奨学金

（日本学生支援機構・関西大学奨学金・学部給付奨学金との併用も可能）

	名　称	給付金額（返還義務なし）
関西大学独自の奨学金	赤井奨学金	年額240,000円
	柳楽（なぎら）奨学金	
	久井奨学金	
	野田奨学金	
	植田奨励金	
企業・団体からの奨学金	㈱竹中育英会奨学金	月額50,000円
	㈱日本証券奨学財団奨学金	月額35,000円（自宅） 月額45,000円（自宅外）
	㈱三菱UFJ信託奨学財団奨学金	月額30,000円
	このほか毎年約30の奨学財団から奨学金採用実績あり	

※奨学金ごとに出願できる学年を限定している。詳細は募集案内を参照のこと。

高槻の風

総合情報学部ならではのボランティア

高槻キャンパスを訪れた見学者には「総合情報学部には、テレビ局並みのスタジオ設備があります」と説明すると、「情報というのでコンピュータ関係の設備だけだと思っていました」と意外な表情で感想が返ってくることがある。

総合情報学部のカリキュラムは社会情報システム系、コンピューティング系、メディア情報系の三つの系に多くの実習科目があるが、実習教育は、主にC棟（スタジオ棟）と呼ばれる建物で行われる。八百台以上のパソコンが設置されているが、コンピュータ棟ではなくスタジオ棟というのは、スタジオ施設が備わっているからである。調整室、MAルーム、内部アナウンスブース、ビデオ編集室など、制作実習ではこのスタジオの設備や機器を主に使用する。その制作実習の合同発表が一月十日に行われる（合同発表会は「Medi-Fes」というタイトルで年一回実施している。発表会までの間、学生たちは制作に懸命である。

ところで、この合同発表会を、総合情報学部ならではのボランティア学生が運営をサポートしている。

メディア・クリエイティブ・サポーターは、平成十九年六月から始まったばかりの総合情報学部生ボランティアチームである。スタジオのプロ仕様の機材を使用する時の頼りになる存在であると同時に、オープンキャンパスのスタジオイベント、メディア講習会、その他スタジオ関連行事のサポートを担う集団である。

総合情報学部の学内のイベントに参加することで、総合情報学部への帰属意識が高まるだけではない。イベントを成功させるために、他のスタッフとのコミュニケーションも緊密になり、さらに学生自身の技術向上やチームワークの強化というメリットがある。

現在、二十四人が登録しており、合同発表会の司会もこなす。

「Medi-Fes」は一般学生の観覧もできるので、総合情報学部生だけでなく多数の観客の来場を願う。作品そのものだけでなく、発表会の運営サポートをする学生の姿も見逃せない。

総合情報学部生のボランティアは、もちろんメディア・クリエイティブ・サポーターだけが全てではない。

千里山のボランティアセンターに登録した総合情報学部生は現在十三人である。高槻キャンパスにあるボランティア掲示板では、千里山のボランティアセンターから送られた募集を地域別に分類して一覧掲示している。地域社会で募集しているボランティアにも関心をもってほしい。ボランティアは学生が社会の一員だと自覚できる機会でもある。

（高槻キャンパス事務チーム）

アメフット部員が不審者確保

吹田警察署から表彰状

左：櫻間さん、右：西尾さん

昨年十一月十一日にアメリカンフットボール部の櫻間啓さん（経四）と西尾拓也さん（商四）が、同部室内で不審者を発見し、追跡して取り押さえた。この功績を称え、同月十六日に吹田警察署から表彰を受けた。

訃報

前原　昌仁（まえはら・よしと＝名誉教授・元文学部教授）

平成十九年十一月二十日死去。七十六歳。昭和二十八年関西大学文学部仏蘭西文学科卒業後、副手、助手を経て、三十五年本学文学部専任講師。三十八年助教授、四十四年教授。六十一年十月から平成二年九月まで文学部長。十三年三月定年退職。同年四月名誉教授。専門はフランス文学。

受賞

◆展実行委員会
◆第２回湖都百景芸術大賞展「白馬会名誉会長国連認定画家丁紹光（ティンシャオカン）賞」および「２００８年北京出展推薦賞」
社会学部　二年次生　浦　大典
（平成十九年十一月十五日）

○社団法人日本機械学会
◆会員功労賞
システム理工学部教授　大場　謙吉
システム理工学部教授　小澤　守
システム理工学部教授　多川　則男
◆事業功労賞
関西大学
（平成十九年十月二十六日）
○第２回湖都百景芸術大賞

退職記念最終講義

今年三月をもって定年退職する教員の退職記念最終講義が、左表のとおり予定されているので、ふるって聴講してほしい。

学部	氏名	日時	場所	テーマ
文	本田　忠雄	1月26日（土）14：00～15：15	第1学舎3号館AV―A教室	「フランス中世　愛の物語作家マリ・ド・フランス」
	田中　欣和	1月26日（土）14：40～16：00	第1学舎5号館E603教室	「生きて70年、関大で41年―語り残しておきたいこと―」
	平田　重和	1月26日（土）15：20～17：00	第1学舎3号館AV―A教室	「カミュの人と文学」

自己点検・評価から改善・改革へ

大学評価フォーラム

芝井敬司副学長

関西学院大　井上琢智氏

同志社大　山田礼子氏

立命館大　坂本和一氏

大学評価フォーラム開催にあたって

昨年10月27日に国公私立の大学関係者を対象として、（財）大学基準協会・大阪大学・関西学院大学・同志社大学・立命館大学の協力の下に、関西大学主催の「大学評価フォーラム」を、千里山キャンパスソシオAV大ホールにおいて開催した。

テーマを「認証評価結果をいかに大学の改善・改革につなげるか」と設定し、第１部として鈴木典比古国際基督教大学学長・大学基準協会大学評価委員会委員長ならびに馬場明道大阪大学前理事・副学長から基調講演があった。次に、第２部では、井上琢智関西学院大学副学長・評価情報分析室長、山田礼子同志社大学教育開発センター所長、坂本和一立命館大学大学評価委員会委員長・大学評価室室長を迎え、大和正史本学自己点検・評価委員会委員長とともにパネルディスカッションを実施した。

今回のフォーラムは、講演者・パネリストの先生から「大学基準協会における認証評価のあり方とその現状」「国立大学法人としての優れた評価活動事例」「先行事例としての関西学院大学、同志社大学、立命館大学それぞれにおける活動状況」の紹介とともにディスカッションを行うことで、本学の教職員が肌で学び、関西大学が今後とるべき道を明確に捉えることができる機会となるように企画・実施されたものである。

この趣旨に沿うように、本学から多数の教職員が参加し、大学執行部はもちろんのこと、学校法人から、専務理事、常務理事も出席した。

一方で、今回のテーマは、いずれの大学においても重要な位置付けがなされるものであることから、他大学からも多数の参加があり、200人を超える参加者の下で、熱のこもった講演ならびにディスカッションが繰り広げられた。

関西大学における自己点検・評価活動

そもそも、大学における自己点検・評価活動は、1991年の文部省（当時）のいわゆる「大綱化」に従い実施されるようになったものである。本学では、1993年に自己点検・評価のための準備委員会を設立し、翌1994年には第１期関西大学自己点検・評価委員会を発足させた。それ以降、同委員会は、大学の主要データを収めた『データブック』を毎年刊行するとともに、『自己点検・評価報告書』と大学構成員の研究活動を記載した『研究総覧』を隔年に発行してきた。

その後、2002年11月には「学校教育法」が改正され、このような自己点検・評価活動をベースとして、国から認証を受けた第三者評価機関による評価（認証評価）を受けることが義務付けられた。本学では、2002年発足の全学自己点検・評価委員会（第５期委員会）から自己点検・評価報告書の作成内容・方法について見直しを行うなどして、制度変更への対応を進め、2006年度には大学基準協会の認証評価を受けており、文部科学省による「事前規制から事後チェックへ」という政策転換の流れの中で、大学としての自己点検・評価活動のあり方について見直しを進めてきている。

本学は、2006年度の認証評価で、17項目の助言を受けた。その内容は、以下のようにソフト面とハード面に大別することができる。

【ソフト面】
①組織的なFD活動および学生による授業評価方法の改善ならびに大学院教育に対してのFD活動の実施
②学部における一年間の履修可能単位数の是正
③留年者数を減少させるための取り組み、卒業予定者の合格率の改善など、また、収容定員に対する在籍学生数比率の改善
④オフィスアワーの制度化
⑤大学院における社会人受け入れ状況の改善など

【ハード面】
①施設面での耐震基準の促進
②飲食設備の更なる充実
③図書館の収容定員に対する閲覧室座席数の更なる充実
④教員１人あたりの担当授業時間数における教員間のアンバランスなどに対する助言

このような助言に対して、３年後には、大学基準協会に改善報告を行うことが義務付けられており、実効性のある改善に向けた活動がいままさに求められている。

基調講演

今回のフォーラムは、このような改善に向けた実効性のある活動を円滑に行うため、他大学の優れた先行事例の紹介とともに、現在、本学において進めつつある自己点検・評価に関する取り組みを示し、広く意見を募ることを目的に開催された。

基調講演として鈴木典比古大学基準協会・大学評価委員会委員長から、「まっとうな教育」と題した講演があった。講演では、①大学基準協会における認証評価は、社会に対して教育の質を保証するものであり、評価結果の提示とその後の改善評価書の提出と検討を通して、大学全体の継続的改善を支援することを目的としていること、②自己点検により自らを評価していく過程で、評価そのものが「大学のカルチャーになる」、すなわち、構成員一人ひとりが深く大学活動にコミットしている意識を持ち、自らの意思のもとにその改善に向かった活動を行う努力が大切であること、③私立大学として、建学の精神を尊び、加えて各大学が現在めざす教学の理念を明確にし、その実現に向かった活動を構成員（教員・職員・学生）一人ひとりが理解して担う体制を整え、実施することが重要である、との意見があった。そして、これらの活動においては、当初の目標を遂げているかを評価することにより、初めて評価活動が成り立つのだと力説した。John Bardeenの言葉を引用して「対話を通して初めてものがなり、互いに批判思考の結果を受け入れる寛容が新しいものを作り出す」のだと評価から改善へ向けての「対話」の重要性も説いた。さらに、国際基督教大学において理念としている「リベラルアーツ教育の実現」に向けた活動と、そのめざましい成果との関係を例に挙げ、理念と点検・評価とのつながりについて説明があった。

鈴木典比古大学基準協会・大学評価委員会委員長

二つ目の基調講演として、馬場明道大阪大学前理事・副学長からは、国立大学法人評価を厳格に実施している大阪大学における「評価実施のシステムづくりの理念」「説明責任の重要性についての認識」「評価にかかる負担軽減」「大学の部局をセグメントとした評価組織作り」などについて講演があった。まず、評価の前提として、中期目標の達成評価と評価結果を次年度予算配分に反映させるシステムを視野にいれて、①根拠データに支えられた評価であること、②社会からの負託に応えるために自らを評価するという意識が必要であることが述べられた。次に実施にあたっては、①はじめに「評価ありき」ではなく、全学的に実施可能なところから手をつける機動性が大切であること、②点検・評価の目的を明確化すること、③評価対象・基準を明確化すること、④結果の取り扱いを明確化すること、⑤合意に基づくPDCAの実施が重要であることの説明があった。このような活動を円滑に実施するために、大阪大学においては、記入シートを準備するとともに、それを報告書作成だけに用いるのではなく、次なる活動への基本的なデータとして活用していることについても話があった。このような点検・評価には、適切なインセンティブ、たとえば、「概算要求に科学的裏付けを持たせる」「重点配分などに反映する」など有機的つながりを持たせることも必要であることを付言した。このような仕組みを理解し、活用することによって、大学の活性化がもたらされるとの考えが披露された。

馬場明道大阪大学前理事・副学長

さらに、このような点検・評価組織では、学長が機動的にリーダーシップを発揮し、円滑な活動を行うために、全体を俯瞰する（ふかん）システムの構築が不可欠であり、それぞれの部局が「よくやっているから評価」するような査定ではなく、各部局の優れた点・問題点を洗い出し、全体のバランスをとるように改善することができるシステム構築が重要であることにも言及した。

最終的には、評価のための評価を行うのではなく、教育研究を重視していくことのできる活動が重要であること。そのために、構成員が自らの立場で、ミッションを理解し、構成員としての自覚と責任の共有化を図ることの大切さ、つまり、点検・評価というものは構成員の意識の問題であり、自己啓発が次なるステップをもたらすものであるということの重要性を力説した。

このような第１部の基調講演を受けて、第２部では、各大学の状況がそれぞれ紹介され、それに基づいてディスカッションが進められた。

関西大学からの情報発信と問題点

大和自己点検・評価委員長から、認証評価において17項目の助言を受けたことが紹介され、その改善に向けて、実効性のある活動を行うために、①組織のあり方、②点検・評価項目のあり方、の二つの視点による組織改革が、第７期関西大学自己点検・評価委員会において進められていることが紹介された。

現在までの本学の自己点検・評価活動の位置づけは、その規程の第２条に定められた「委員会の任務」に基づき「委員会は、その任務を遂行するにあたって、個人の権利と学部の自治など各機関の自主性を尊重する」との規定に従って、個人や学部の自治ないし自主性を損なわないように「第三者的な機関」として性格づけられ、かつその活動による影響力も限定的なものになっていたように感じるとの説明があり、結果として、評価のための評価にとどまっている状況ではないだろうかとの現状分析がなされた。

このような議論に基づいて、組織として、実効性を持たせるために、より「執行」に近いところに位置する点検・評価組織が望ましいものであるとの現行の自己点検・評価委員会での議論に基づく構想が引き続いて述べられた。

また、点検・評価項目についても、助言として指摘を受けた「組織的なFD活動の実施・大学院教育におけるFD」など大学基準協会が提示する点検・評価項目に加えて「関西大学独自の重点的な点検・評価項目」を新たに掲げた活動を進めていることも示された。

このような認証評価結果に基づいた活動を、組織として、自律的・内発的な自己点検・評価につなげるためには、学外者による評価を積極的に取り入れ、透明性と刺激を持って活動する。すなわち「自らをブラッシュアップすることを常とする組織文化が求められている」ものであるとの結論を導き出している。

また、先行事例から学びたい項目として、(1)評価者側の視点のあり方、(2)国立大学法人の評価体制、(3)評価指標の設定・PDCAサイクルの捉え方、(4)教育評価とその意味、(5)教育力強化に向けた取り組み、(6)各大学における評価室の取り組み、が挙げられた。

今回のフォーラムにおいては、「(1)評価者側の視点のあり方」については、前述のように鈴木先生から直接大学基準協会の立場での評価の視点をうかがうことができた。「(2)国立大学法人の評価体制」については、国立大学法人評価についての視点ならびにそれを受けた大阪大学の仕組みを馬場先生から詳しくうかがうことができた。

パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、大和委員長が先行事例から学びたい項目として取り上げた「(3)評価指標の設定・PDCAサイクルの捉え方」について、まず関西学院大学から、建学の理念・目的と関連づけた評価指標のあり方の事例として「キリスト教の教義に基づく大学独自の評価指標の設定方法」の説明があった。また、自己点検・評価ならびに認証評価に基づくPDCAサイクルの実践例とともに、その実施組織のあり方として①院長を委員長とし、日ごろから執行に携わっている者で組織された全学的な組織である「評価推進委員会」を設置していること、②学内に第三者評価を定期的に実施する組織を設置していること、③これらの活動を支援する事務組織として評価情報分析室と評価結果をPDCAに活かすための企画室を設置していることについての講演があった。

次に、「(4)教育評価とその意味」「(5)教育力強化に向けた取り組み」について、同志社大学から、特に教育開発センターにおけるPDCAサイクルのあり方を踏まえ、①教育改善のための学内組織の整備状況、②ITの活用により収集したデータを利用した教育効果の検証状況、③教育評価を含めた教育力強化への取り組み、という視点から披露された。

立命館大学からは、既存組織の改革が大変難しい状況を踏まえ、自己点検・評価活動において大学としての目標設定および検証方法の設定がいかに重要であるか、ということについての説明があった。具体的には、①理事長・総長の諮問機関として、外部委員と内部委員との混成による「大学評価委員会」を設置して、第三者の見方も取り入れた目標設定を行っていること、②学生の声も直接聞いたうえでのPDCAサイクルを構築していること、③根拠に基づいた点検・評価を実施するためデータ収集・IT活用が重要であること、④達成目標については可能な限り数値化し、目標を明確化するとともに、達成度評価の際の客観性を確保すること、⑤目標達成までの期間設定と検証・評価システムを明確化し、現場が日常的に改革につなげる点検・評価の仕組みが必要であること、⑥設定した目標を予算申請時に作成するPDCAサイクルフォーマットに記述せず、それを査定の基礎としていることなどが紹介された。

各大学からの話題提供は、いずれも本学がめざす「実効性のある評価活動」に直接関係する先行事例であり、有意義なディスカッションを行うことができた。

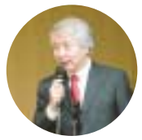
フォーラムを終えるにあたって

フォーラムを終えるにあたって、鈴木先生から、「各大学独自の評価項目の柔軟な設定の意義」、「PDCAサイクルのプラニングと戦略的プラニングの関連付けの難しさ」に対するコメントがあった。また、馬場先生からは、「何かに力点を置いた特化した評価の重要性」についてコメントがあった。池内啓三本学常務理事からは、鈴木先生の講演にあったJohn Bardeenの言葉を引用して、本学構成員の全てが、評価そのものを恐れない土壌作りをすることが評価を根付かせ改善につながる活動となるのではないかとのコメントがあった。そして、フォーラムの司会・コーディネーターを務めた芝井敬司副学長からフォーラム全体を通した感想として、「本日、貴重なご講演をいただき、強く印象付けられたことを申し上げたい。『点検・評価』がある種押し付けられたというイメージを持ってしまいがちな中で、各大学ではさらに踏み込んだ活動として、建学の精神・現状などを踏まえ、今後発展していくために、教育改善、意思決定システム、PDCAサイクルなどにおいて、独自のシステムを編み出すために努力を惜しまず、邁進されていることに深い感動を覚えている。そしてまた、その重要さを改めて認識することができた。このような意識の高まりが、残念なことに関西大学ではまだまだ十分に構成員に浸透していないのが実情のように感じている。今後は、しっかりと先行事例に学び関西大学としての独自の姿勢とシステムを、さらに、問題意識の深化をはかっていかなければならないと強く感じている。このあたりが今後の関西大学が進むべき道であると認識できた。フォーラムを通して関西大学がより発展していくために解決していかなければならない構造的・具体的な問題を明確にすることができたことは、本日のフォーラムの大きな成果であると考えている」とのとりまとめがなされて、フォーラムは終了した。

主催者としては、盛りだくさんの内容で、時間的には短すぎたのではないかと思えるほどに、充実した講演・議論がなされ、本学にとって今後の活動の糧となるフォーラムが実施されたものと考えている。

（学長補佐　新井　桀彦）

「大学評価フォーラム」を終えて



河田悌一学長

日本の高等教育政策は、ここ数年間で大きな転換期を迎えている。

大学は、教育・研究・社会貢献という使命のもと、具体的にどのような機能に重点をおき、個性・特色の明確化を図っていくのか、自らの選択による機能別分化が求められている。また、国による財政支援も、大学がもつ多様な機能に応じた多元化が進んでおり、適切な評価に基づいて行う方向性が打ち出されている。このことは、①国際的規模で進行している高等教育の流動性を高める動き、②日本国内における18歳人口の減少、③高等教育の質保証の重要性――などといった問題を背景として、国公私立大学間の競争を生み出すと同時に、それぞれの大学が厳しく「評価」されることを意味している。

関西大学は現在、教育・研究の質の保証」や「競争的資金の獲得」などに精力的に取り組んでいるが、「評価」された結果を改善・改革に活かすことが今後の大きな課題となっている。そのため、今回の「大学評価フォーラム」では、大学内外における「評価」について検証し、その結果を改善・改革にどのように結びつけるかをテーマとした。

当日は、外部評価機関や他大学の関係者にご講演いただくとともに、さまざまな取組み事例も紹介いただき、関西大学が改善・改革を進めていくうえで一つの転換点ともなりうる、きわめて有意義なものとなった。本フォーラム開催にあたって、ご協力いただいた関係各位に、心から感謝申し上げたい。

フォーラムに参加して

大和　正史（自己点検・評価委員会委員長／法科大学院教授）

「執行」を自ら点検・評価

本学の自己点検・評価委員会は1994年４月に設置され、２年ごとに計６冊の報告書を公表してきた。第４期までは、全学に係る報告書を委員会が独自に作成していたが、第三者評価の義務化に伴い、第５期の報告書から、学部等の組織単位ごとに作成された報告書をまとめる方式になった。第７期委員会も、この方式で７冊目の報告書の作成に取り組んでいる。

本学の教職員であれば、14年に及ぶ報告書の作成作業に、一度は関わったことがあろう。800頁を超える報告書であるから、その仕事量は並大抵のものではない。しかし、その割には達成感が今一つというのが実感ではなかろうか。

関西大学自己点検・評価委員会規程では、自己点検・評価委員会は、その任務を遂行するにあたり、個人の権利と学部の自治等各機関の自主性を尊重するものとされ、委員会自体が「第三者」的に位置付けられてきた。必然的に、その評価や意見は、「執行」に対して遠慮がちなものになっていたように思われる。それでは実効性ある改善策を期待できないであろう。

今回のフォーラムは、すでに動き出している他大学の組織や活動について知るよい機会となった。本学の管理運営組織は、理事会の権限・構成をはじめ、大きく変わろうとしている。自己点検・評価組織も、「執行」を自ら点検・評価する組織に改編していく必要があると思われる。

2008年度から新カリキュラム

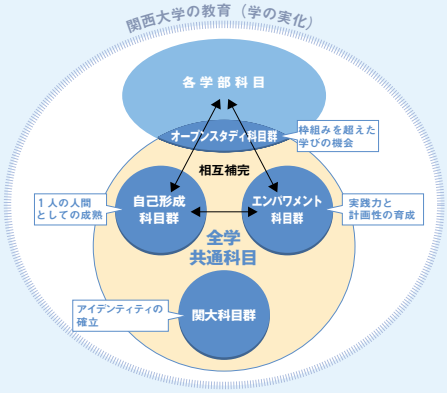
関西大学 全学共通科目

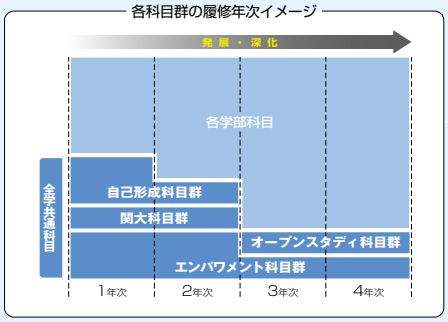
本学では、二〇〇八年度入学生から、従来の「教養科目」「インターファカルティ教育科目」「保健体育科目」を統合して「全学共通科目」とする新カリキュラムをスタートします。以下に、大きく変わる点の概略を説明します。なお、新カリキュラムの実施にあたっては、現状との間で混乱が生じないように配慮し、現在の在学生については教養科目のクラス編成等に変化が生じる以外、卒業要件や履修等の面で特に変わるところはありません。

「全学共通科目」のねらい

長らく日本の大学では、一・二年次の「教養教育」を人文・社会・自然の分野別に縦割りにして三・四年次の「専門教育」に備えるという考え方が広くとられてきました。しかし一九九一年に大学設置基準の大綱化がなされてから、多くの大学がこのような考え方を改めて新しい学問と社会のかたちに対応してきました。その中にあって本学は、少しずつ改革を進めて時代の要求に応えてきましたが、どちらかというと大幅な変更に対しては慎重な姿勢をとってきました。しかし、二〇〇四年に教養改革に関する学長諮問が出されたのをきっかけに約三年間にわたる全学的な議論を経て、本学も二〇〇八年度入学生から教養教育を大幅に改革し、「全学共通科目」をスタートさせることになりました。

全学部の合意を得たその基本理念は、従来、教養教育が専門教育に入るための準備段階として従属的にみられてきたこと、つまり教養教育と専門教育との間が「階層的」に捉えられてきたことへの見直しにあります。そして関西大学の学生にふさわしい資質を学部の違いを越えて伸ばすこと、そのうえで学部ごとに特化した専門教育と有機的に連関させながら総合的な知を備えた自立した個人を育てることが「全学共通科目」の目的となっています。





「全学共通科目」の科目群について

全学共通科目は四つの科目群からなり、科目の性格づけと目的を明瞭にしています。

A群：自己形成科目群

高校生から社会人へいたる成長を促す科目群です。さらにその中に、成長に必要な能力や姿勢に応じて次の①～③の三つの科目区分を設けます。

①**知の発見**：洞察力・自己決定力を育む科目群です。高校での学習と大学での学問知との間のギャップを埋めることも意図して、「こころとからだを科学する」「自然災害の科学」「世界の中の日本経済」など、身の回りの題材からアプローチして授業を進めることをねらっています。

②**知の継承**：既存の学問分野に対する知的好奇心・探究心を育む科目です。「哲学を学ぶ」「人類学入門」など学問分野に沿った内容が中心になりますので、従来の「教養科目」に近いものになります。

③**知の跳躍**：学問領域を越えた自由な学びの中から創造力・総合力を育む科目です。学内から公募によって科目や担当者を決定し、「笑いの科学」など、多様で興味深い科目の設定を予定しています。

◀自己形成科目群はそれぞれの科目ごとに「人間性」「社会性」「国際性」のうちのいずれかの教育の目的別に配置します。もちろんこれらの目的は相互に関連しあいますが、科目ごとの目的を表示することで科目の履修選択に役立つようにします。

B群：エンパワメント科目群

自己形成に必要な能力を育み自己実現に向けて実践する科目群です。現行の「キャリアデザイン」がこの科目群にあたるほか、「文章力をみがく」「スタディスキルを身につける」「野外活動実習」などの科目が設置されます。

C群：オープンスタディ科目群

学部・大学を越えた幅広い学びの機会を提供する科目群です。現行の「大学コンソーシアム大阪プログラム」「生涯スポーツ・身体運動文化コース」などがこれにあたります。

K群：関大科目群

関西大学の学生としてのアイデンティティを形成する科目群です。

「知の群像：日本の歴史と関西大学」「吹田市と関西大学」「高槻市と関西大学」「関西文化圏と関西大学」が開講されます。

■A群（自己形成科目群）の教育の目的と科目の性格

（マトリックス表とサブグループ）

科目の性格＼教育の目的	人間性（人格の陶冶）	社会性（成熟した社会人）	国際性（地域・国際社会の一員）
知の発見（洞察力・自己決定力）	1. こころ・からだ・いのち 2. 思考・行為 3. 自己表現・他者理解 4. 人権 5. 時事問題	1. 倫理・道徳 2. 生活の中の知 3. 地域・集団・民族 4. 日本の社会 5. 時事問題	1. 国際理解 2. 自然・環境 3. 世界の中の日本 4. 平和と戦争 5. 時事問題
知の継承（探究心・知的好奇心）	1. 知の見取り図 2. 知の探求		
知の跳躍（創造力・総合力）	学問領域を意図的に超えた各テーマ		

◎目的と性格を掛け合わせたマトリックス表の枠の中に「1. こころ・からだ・いのち」などのサブグループをつくり、そのもとに関連科目が設定されます。これによって、一つ一つの科目の目的・性格・内容などがよりわかりやすくなります。

現カリキュラムとの関係について

現行のカリキュラムとの関係を大枠で言えば「教養科目」が「自己形成科目群」中の特に「知の発見」や「知の継承」に、「インターファカルティ教育科目」の中の「テーマスタディ」が「自己形成科目群」の中の「知の跳躍」に、そして「キャリア教育」「保健体育科目」が「エンパワメント科目群」に対応することになります。

二〇〇七年度以前入学生についても、一部の科目を除き、二〇〇八年度からこれまでの教養科目・インターファカルティ教育科目・保健体育科目と一体運営される「全学共通科目」を履修することになりますが、卒業所要単位や選択必修などの履修制度、あるいは単位修得の仕方は従来どおりです。これまでの科目名称とは違った科目が増えますが、みなさんにとっては多彩な科目群が増えるので、選択肢がより豊かになることでしょう。

「全学共通科目」には「人文」「社会」「自然」などの従来型の分野区分がありませんが、履修ウェブ画面では、在学生用に各々の科目の従来からの分野区分が表示されますので、その表示にしたがって選択必修単位を満たしてください。三分野からの選択必修単位数も、これまでどおりです。

前述したように、総合情報学部以外の学生については「教養科目」のクラス編成が学部単位ではなく、複数学部の学生との共修となる点などが今までと変わります。

（全学共通教育推進機構）

「全学共通科目」の運営について

これまで教養科目は学部ごとの科目として運営されてきましたが、全学共通科目では、全学の学生に等しく開かれた科目として運営されます。これに伴い、本学学生共通の教養として異なる学部の学生がともに学ぶかたちで、原則として法学部・文学部・政策創造学部のエリアと、経済学部・商学部・社会学部のエリアに分けて開講し、システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部の学生はどちらのエリアでも受講できるようにします。

併設校ニュース

飛躍

○アイススケート部

高橋大輔さん（文四）が、GPシリーズ第六戦・二〇〇七NHK杯国際フィギュアスケート競技大会（十一月二十九日から十二月二日）で大会二連覇を達成。これを受けて、十二月十四・十五日にイタリアのトリノで行われたグランプリファイナルへ出場し、昨年に引き続き銀メダルを獲得した。

○拳法部

第五十二回全日本選手権大会（十二月二日）で、十一年ぶりに団体優勝を獲得。女子団体でも優勝し、大会史上初のアベック優勝となった。主将の辻本悠祐さん（文四）が最優秀選手賞に輝いた。

○重量挙部

武市樹さん（商二）が、第五十五回関西学生選手権大会（十二月一日）男子六十九キロ級で、トータル二百七十二キロを挙げ、自己新記録を更新するとともに、ジュニア日本新記録を樹立し、優勝を果たした。

○速記部

第九十四回全日本学生速記競技大会（十二月二日）の団体戦で総合優勝し、史上初の四十連覇を達成した。また、個人戦においてもA級で原優人さん（文二）が、最優秀新人賞を受賞した。

（高中幼事務室）

●全国学力調査で一中生が好成績

昨年四月二十四日に実施された文部科学省の「全国学力・学習状況調査」に、関西大学第一中学校の三年生二百四十七人が参加した。

去る十月二十四日に発表された結果によると、本校生徒の平均正答率は、「国語A」が九一・四％、「国語B」が八五・〇％、「数学A」が九一・九％、「数学B」が八五・九％であった。

全国の国公私立中学校の平均正答率は、「国語A」が八二・二％、「国語B」が七二・〇％、「数学A」が七二・八％、「数学B」が六一・二％となっており、本校生徒はすべての科目で全国平均を大きく上回る好成績を収めた。

（高中幼事務室）

●関西大学北陽高校 入試・出願日程

本年四月に第一期生を迎えるための入学試験が、二月九日（土）・十日（日）に実施される。

出願期間は、一月二十四日（木）～一月三十一日（木）。時間は、九時～十六時三十分（日曜を除く。土曜は十三時まで）。

合格発表は、二月十一日（月・祝）、郵送にて通知する。

なお、一・五次入試も二月十六日（土）に予定している。

問い合わせは、関西大学北陽高校（☎06-6328-5964）まで。

（総合企画室）

多数の参加者で熱気あふれる入試説明会会場

平成20年度　開講講座の概要

各講座・コースの詳細は学内随所に配架している講座案内をご覧ください。

１月９日（水）　12：10～受付開始

講座・コース名			講座の概要	開講場所
英語講座	TOEIC®テスト対策コース	650点目標クラス	社会で評価される英語力の指針 2-Phase Methodで確実なスコアアップをめざします	千里山
		550点目標クラス		
		650点目標クラス		天六
		550点目標クラス		
情報処理講座	パソコン検定４級コース		パソコンを基礎から学び、最終日に講座内で本試験を受験します	天六
	Excel パーフェクトコース		Excel の基本操作から始め、マクロまで学びます	
公務員講座	国Ⅱ・地方上級対策講座	主要５科目コース	国Ⅱ・地方上級・国税・裁事・労基官の合格に必須の憲法・経済原論・民法・数的処理を学びます	千里山
		経済原論		
	技術系対策講座		技術系の試験に必要な科目をライブ講義で学びます	
	土木職対策講座		土木職の試験に必要な科目をライブとビデオの講義で学びます	
	国Ⅰ対策講座	法律職・経済職・行政職	国Ⅰはもちろん、国Ⅱ・地方上級の上位合格を狙います	
司法講座	法科大学院入試対策講座	基礎コースA	憲法・民法・刑法のインプットと論文の書き方を学びます	千里山
		基礎コースB	商法・民訴・刑訴・行政法のインプットと論文の書き方を学びます	
		実践答案練習コース	法律７科目の答案練習で法科大学院既修者コース合格をめざします	
		適性試験クイックチャージコース	適性試験の頻出分野を中心に解法を学びます	
		適性試験ファイナル模試コース	全国模試で実力の最終チェック	
		小論文対策コース	難化する小論文をマスターします	
	司法書士対策講座		主要４科目のインプットを無理のないペースで学びます	
会計職講座群	簿記検定講座	３級対策コース	充実した直前の答練で確実に合格を狙います	千里山
		２級対策コース		
総合旅行業務取扱管理者講座		国内・総合コース	広範囲な試験内容を網羅したカリキュラムと最新のテキストで合格をめざします	天六
		総合コース		
通関士講座			広範囲な試験内容を網羅し、演習・模試で効果的に学びます	
宅地建物取引主任者講座			インプット・演習・模試がバランスよく組み込まれたカリキュラム	
ファイナンシャル・プランナー講座（ＡＦＰ＋２級ＦＰ技能士）			メイン講師とサポート講師の２人できめ細かいサポート	
色彩検定講座	１・２・３級対策コース		基礎から学び、専門能力として高い評価の１級の合格をめざします	
弁理士講座			基本論点を中心に現役弁理士が丁寧に指導します	千里山
マスコミ試験対策講座		新聞・ジャーナリストクラス	現役・ＯＢのマスコミ人を講師に迎え、各業界・職種研究と論作文・時事問題の解説から最終段階での個人面接まできめ細かいサポートを行います	
		出版・広告クラス		
		放送クラス		

４月23日（水）　10：30～受付開始

公務員講座	心理職対策講座	初級コース	国Ⅰ・地方上級の心理職、家裁調査官、法務教官をめざします	千里山

６月18日（水）　12：10～受付開始

英語講座	TOEIC®テスト対策コース	650点目標クラス	社会で評価される英語力の指針 2-Phase Methodで確実なスコアアップをめざします	千里山
		550点目標クラス		
		750点目標クラス		天六
		650点目標クラス		
		夏期集中		千里山
	TOEFL®テスト対策コース		留学で求められる英語力の指針 留学前に必要なスコア取得をめざします	天六
情報処理講座		パソコン検定４級コース	パソコンを基礎から学び、最終日に講座内で本試験を受験します	天六
		パソコン検定３級コース		
		Excel パーフェクトコース	Excel の基本操作から始め、マクロまで学びます	
公務員講座	教養対策講座	教養１ｓｔステージ	早期学習で教養科目を得点源に	千里山
		文章理解・資料解釈対策コース	たくさんの問題に触れて読み解くコツを掴みます	
	国Ⅱ・地方上級対策講座	数的処理	主要５科目コースの「数的処理」を単一科目で受講できます	
		専門得点アップコース１	国Ⅱ・地方上級の合格に必須の政治学・行政学・財政学を学びます	
	国Ⅰ対策講座	刑法	裁判所事務官の合格に必要なレベルまで学習します	
		面接対策コース	面接の心構えを学び、官庁訪問や面接に備えます（技術系・土木職の受講生対象）	
	心理職対策講座	上級コース	国Ⅰをめざして専門科目のライブ講義を展開します（初級コース受講生対象）	
会計職講座群	簿記検定講座	３級対策コース	充実した直前の答練で確実に合格を狙います	千里山
	公認会計士入門講座		財務会計論と管理会計論の入門講座を展開します	
	税理士講座	簿記論コース	簿記２級レベルから始めて演習・模試まで充実したカリキュラムで合格をめざします	
		財務諸表論コース		
社会保険労務士講座			基本から応用までを網羅したカリキュラムを設定	天六
色彩検定講座		１級対策コース	専門能力として高い評価の１級の合格をめざします	

12月１日（月）　10：30～受付開始

公務員講座	教養対策講座	教養２ｎｄステージ	社会科学分野と論作文を効果的に学習します	千里山
		教養ファイナルステージ	直前に教養科目を総ざらいします	
	国Ⅱ・地方上級対策講座	面接対策コース	面接の心構えを学び、官庁訪問や面接に備えます	
		専門得点アップコース２	国Ⅱ・地方上級の職種ごとに必要な専門科目を学びます	
		主要５科目演習コース	本試験の予想問題を中心に実践力を養います	
	国Ⅰ対策講座	数的処理	国Ⅰレベルの数的処理を学びます（技術系・土木職・心理職の受講生対象）	
	心理職対策講座	上級コース　心理測定統計	国Ⅰ＜人間科学Ⅰ＞をめざす方のための科目（上級コース受講生対象）	
会計職講座群	簿記検定講座	２級対策コース	充実した直前の答練で確実に合格を狙います	千里山

受講申込受付場所・期間・取扱時間

キャンパス	受付場所	受付期間	取扱時間
天六キャンパス	エクステンション・リードセンター事務室	１月９日（水）～　随時【日祝を除く】	13：30～20：00
千里山キャンパス	エクステンション・リードセンター 千里山キャンパス事務室	１月９日（水）～　随時【日祝を除く】	10：30～21：00 ※
高槻キャンパス	高槻キャンパスオフィス	１月９日（水）～　随時【土日祝を除く】	10：00～16：00

※１月９日（水）受付開始の講座は、12：10からの受け付けとなります。

平成20年度　15講座を開講

リードセンターで学ぶ　Extension Read Center

多彩な講座でキャリアUPを応援！

１月９日以降、受付を開始

公務員講座では「国Ⅰ対策講座」で特待生割引制度を実施

公務員講座「国Ⅰ対策講座」では本学学生を対象とする「特待生割引制度」を実施しています。国家Ⅰ種志望者だけでなく国Ⅱ・地方上級をめざしている人も本講座を受講し、合格を確実なものにしてください。

行政職をめざすための「国Ⅱ・地方上級対策講座」のほかに、「心理職対策講座」「技術系対策講座」「土木職対策講座」とさまざまな職種に対応したカリキュラムを展開します。

司法講座でも「法科大学院入試対策講座」で特待生割引制度を実施

『司法講座』は、「法科大学院入試対策講座」と「司法書士対策講座」の二講座で開講します。

「法科大学院入試対策講座」では、「特待生割引制度」を実施します。一・二年次生が主な対象の「基礎コースＡ・Ｂ」では講義・演習に加え、「聴いてから書く答練」をコース内に設けます。三年次生対象の「実践答案練習コース」は答練回数を増やし、既修者コースの合格をめざします。また、適性試験対策として頻出の論点に的を絞って学習するクイックチャージコースを開講するほか、小論文対策コースを新設します。

「司法書士対策講座」は提携先、カリキュラムを大きく見直して開講します。

情報処理講座　パソコン検定四級・三級を取得可能なコースを開講

『情報処理講座』では、「パソコン検定四級コース・三級コース」と「Ｅｘｃｅｌパーフェクトコース」を開講します。

簿記検定講座　日常生活から企業経営まであらゆる場面で必須のスキル

三級対策コースと二級対策コースを二クラスずつ開講します。どちらも授業内容のさらなる充実とより多くの合格者輩出のために各単元におけるまとめ講義や直前期の答練などを充実させ、確実に合格できる実力を養います。

公認会計士入門講座　簿記二級の学習経験がある方は、公認会計士に挑戦

新試験制度に向けて必須科目のうち、財務会計論、管理会計論の入門講義を行います。また、会計専門職大学院進学をめざす人にとっても、基礎学力を身につけることができる内容となっています。

税理士講座　税務のスペシャリストをめざす

税理士試験の必須科目である「簿記論」と「財務諸表論」の二コースを設け、早期合格をめざします。

英語講座　TOEIC®テスト対策コース、TOEFL®テスト対策コースを設けています

※第百十六回日商簿記検定試験三級合格率七十四・三％

「TOEIC®テスト対策コース」は千里山・天六の両キャンパスで開講し、夏期集中クラス（千里山キャンパスで開講）も設けています。このコースでは、就職や昇進の際に重視されることが多いTOEIC®テストのスコアアップをめざします。

「TOEFL®テスト対策コース」は天六キャンパスにて夏期集中の日程で開講します。講座内容は留学を主眼において総合的な英語力の向上をめざし、TOEFL®―iBTテスト対策を行います。

マスコミ試験対策も早期から開始

『マスコミ試験対策講座』は「新聞・ジャーナリスト」「出版・広告」「放送」の業界別にクラスを編成し、それぞれの対策に沿った講義を行います。

就職時に限らず威力を発揮する資格講座

年功序列・終身雇用システムが崩壊し能力主義が一般化した今日、将来を見据えた「資格取得」は、就職・昇進・転職時に自分をアピールできる大きな武器となります。「通関士」・「宅地建物取引主任者」・「社会保険労務士」・「ファイナンシャル・プランナー（ＡＦＰ＋二級ＦＰ技能士）」・「弁理士」などの各種資格の取得をめざす講座を多彩に展開しています。

千里山キャンパス事務室のご案内

リードセンター千里山キャンパス事務室は、第三（社会学部）学舎三号館にあります。

取扱時間　十時三十分～二十一時

講座案内（パンフレット）を学内随所に配架中

各講座・コースの概要を掲載した「講座案内（パンフレット）」はリードセンター事務室をはじめ、ＩＴセンター、図書館、キャリアセンター、インフォメーションロビー、高槻キャンパスなど、学内随所に配架しています。

ぜひ手に取ってご覧ください。

リードセンターでは、千里山、天六の両キャンパス事務室で、受講相談を受け付けています。

問い合わせはリードセンター事務室へ
☎0120-368-150（天六）
☎06-6368-0721（千里山）

関大通信 第349号
平成20年（2008年）１月８日
大阪府吹田市山手町3-3-35
http://www.kansai-u.ac.jp/
次号は２月１日発行の予定です

吹田を知る

吹田建築博覧会～街角がパビリオン～

私たちは「吹田建築博覧会～街角がパビリオン～」と題し、吹田を建築という観点から検証しました。たくさんの素晴らしい建築物を抱える吹田市を大きな建築博覧会場と見立てて、この展示をきっかけに街角にある建築物を見に行こう、と思ってもらえる展示をめざし、企画していきました。

制作した建築物分布地図は、吹田を実際に歩き回り見つけた建物を取り上げています。登録文化財である旧中西家住宅、旧西尾家住宅には何度も足を運び、館長をはじめ、ボランティアや管理している吹田市立博物館のみなさんから多大な協力を得て、展示をより深いものにできました。

資料を集める中で、吹田の歴史や文化はもちろん、現在の吹田市の活動、地理、普段は接することのない人びととの交流など、大学内で生活しているだけでは体験できないことばかりで、この展示を通して多くのことを学びました。「吹田を知る」という全体テーマにふさわしい展示になったと思います。

（文学部３年次生　石田　智子さん）

千里山大正ロマン

大正時代の千里山をテーマにしたのは、われわれが通っている千里山の始まりを知りたいという単純な疑問からでした。いざ調査を開始すると大正時代という古い時代にさかのぼり、想像以上に資料が見つからなく困惑の連続でした。

しかし今振り返ると、その資料が少ないという問題があったからこそ、ほかの班とは違う展示アイデアをたくさん盛り込めたと思います。

例えば、写真だけで現存しない資料は自分たちで模型を製作するといった方法や、地元のお年寄りから聞いた貴重な当時の話をどうにかして会場に来た人びとに伝えたいという気持ちから、聞いた話を言葉の展示として展示ケースの所々に張った方法は、まさに班全体の伝えたい気持ちが展示という形式に生まれ変わった最高の傑作です。ほかにも、当時の時代を物語るアイスクリーマーや懐中時計など大正時代の懐かしくも新しい独特の生活用品も、大変面白い展示となりました。

これらの展示を通じて来場した人びとには、大正ロマンを感じながら千里山の歴史と文化に触れてもらうことができました。

（経済学部４年次生　白山　弘幸さん）

吹田の学校～子どもたちの現在（いま）・むかし～

私たちは『吹田の学校』について展示をしましたが、まったく異なるテーマが隣接している中でいかに自分たちの色＝「学校」を強く出していくかでとても苦心しました。

また、解説(インタープリテーション)の大切さを知りました。展示会をするにあたって私たちには、見学者に何か一つ学んで帰ってもらう、という大切な使命があります。ただ資料を並べただけで私たちが展示の解説をしなければ、せっかくがんばって作り上げてもその価値は半減してしまうし、まったく学んでもらえないかもしれません。楽しく学んでもらえるよう班員で解説の情報共有を徹底しました。しかし、解説をしていると、逆に教わることも多く、展示を通して私たちも多く“学ぶ”ことができました。

学芸員、と聞いていったいどれほどの人がこの職業の内容を知っているのでしょうか。今回私たちはほんの序の口しか経験していないのかもしれません。しかし、学芸員の大変さ、楽しさ、知識、技術などをこの博物館展示会で学べたのはとても大きかったのではないかと思います。

（文学部３年次生　和田　牧子さん）

紙上博物館展示会

昨年11月12日から17日まで関西大学博物館で展示会「吹田を知る」が開催されました。大正11年の移転以来85年の間、関西大学千里山キャンパスが育まれてきた“吹田・千里山”を、学生たちが６つの班に分かれ、吹田地域のみなさんと共同して、さまざまな視点から検証し、期間中1,000人を超える来館者が訪れました。

今回の特集では「吹田を知る－紙上博物館展示会－」と題し、展示会を企画した学生たちの声を紹介します。

マロニー吹田展

～この町からはばたく企業～

自分たちの地元にどのような企業が根付いているのかを知り、それらの企業の活動に目を向ける機会になればいいと考え、始めたのがこのたびの展示「マロニー吹田展～この町からはばたく企業～」です。マロニー株式会社は本社と工場を吹田市に構え発展してきた企業であり、このテーマに合うと考え、決定しました。

展示を見学した人びとに、マロニー株式会社をただ紹介するだけではなく、吹田市との関係を知ってもらいたいというのが趣旨でしたが、苦心したのは、マロニー株式会社やその近隣の企業が、神崎川の美化運動に参加し、地域に密着した活動を行っていることを知るまでした。結果として、見学された人びとから、吹田市に多くの企業の本社があることや、その活動について初めて知ったという感想をもらいました。

今回の展示を通じて、私たち自身が今まで知らなかった企業の歴史や活動を学び、深く追究することで企業とその土地のかかわり合いを学ぶことができました。そして、展示を見学した人びとにも、日常の中でふと地元にある企業に目を向けてもらえたのではないでしょうか。

（文学部３年次生　出口　善明さん）

吹田ゆかりの美術～文化人たちの交流～

私たちの班は今回の展示会で「吹田ゆかりの美術」というテーマで展示をしました。私は特に第３部の西尾邸の展示の準備を担当しました。その中で一番印象に残っているのは、展示用の吹田慈姑の掘り出しと運搬です。事前に西尾邸の方から、掘り出しと運搬には手間がかかると聞いていたので覚悟はしていました。

しかし、その覚悟は甘いものだと気づかされました。水と泥でいっぱいのバケツ大の容器は、ひ弱な日本の大学生には持てない重さでした。まず一つ目の甘さです。結局、中の慈姑だけ電車で持って帰ることにしました。ここで二つ目の甘さが出ます。慈姑を持って電車に乗ると周りの目がとても気になるのです。そして三つ目の甘さが出てしまいました。慈姑が展示初日から枯れかかっていたのです。水が根っこにいきわたっていなかったようです。

このように準備は自分たちの甘さが目立ったものになってしまいましたが、展示会自体はほかの班の人のおかげもあり、成功に終わりました。

（文学部３年次生　坂田　仁史さん）

吹田のまつり～甦る「ドンジ」～

男性数十人が集まり筵（むしろ）を巻く。私たちが展示する吉志部神社秋祭り「ドンジ」の準備風景です。

祭りの本番に向け準備をする小路どんじ保存会を１カ月にわたり密着取材しました。62年ぶりに祭り復活を喜ぶ保存会の絶え間ない笑顔と、神事に挑む崇高な使命感が印象的で、まず、この情熱・思い、目に見えぬものを伝えるのが私たちの最大の課題だと思ったのです。そこで展示は、この祭り独特の祭具を見てもらうだけではなく、そこに携わる人びとのドキュメントを追ったものにしました。

祭りの前日の様子から展示スペースを割き、シーンごとに撮り貯めた写真をパネルにして来館者に見てもらう。図録では１カ月前からの作業行程を６ページにわたり載せ、祭りは当日だけではないということを強調したのです。

展示は一定の評価を得ました。すべては小路どんじ保存会の全面協力のおかげでした。

祭りに携わる人びとの思い、それを展示で表現することの難しさを勉強した展示会になりました。

（文学部４年次生　松本　勧大さん）

▶編集後記◀

大学と地域との連携の重要性が言われるようになって久しい。本号で取り上げた博物館での取り組みに足を運んでみたが、吹田という身近な地域についてでさえ、まだまだ知らないことが多いことに気づかされた。今度は、近隣の博物館、美術館や、地域の祭り、そして街角へと足を延ばしてみたいという気持ちにさせられる、興味深い展示会であった。地域との関わりのためにも、まずは身近なものへ多様な好奇心をもつことは重要だろう。

本号でもさまざまなシンポジウムを取り上げたが、大学では毎月たくさんの公開イベントが開催されている。学生のみなさんには、もっと気軽に足を運んでみてほしい。思わぬところに面白さを感じる自分を発見できるかもしれない。

（守　如子）

今月の表紙

宮本　勝浩（みやもと・かつひろ）教授

専門は、理論経済学、関西経済論。最近は「阪神優勝の経済効果」、「堺市のシャープ誘致の経済効果」などを発表。主な著書は『移行経済論』、『現代経済分析のフロンティア』、『大阪経済学』など。